

Social & Environmental Report 2012

マブチグループ
社会・環境報告書 2012

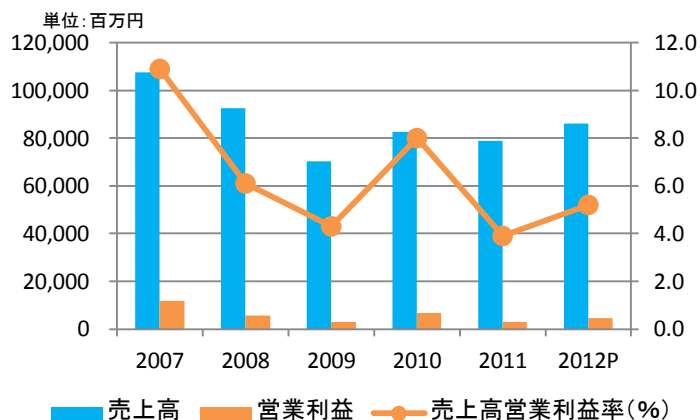


会社概要

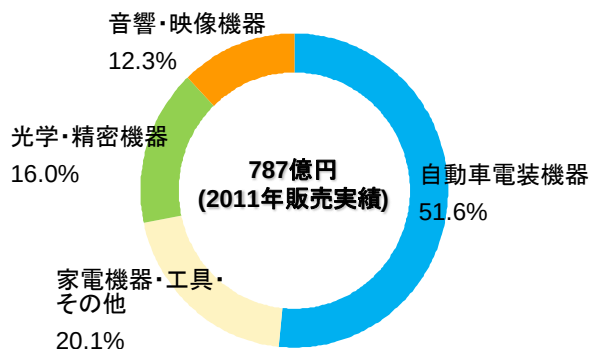
■ 商 号	マブチモーター株式会社 MABUCHI MOTOR CO.,LTD.	■ 従業員数	本社:750名 グループ:33,918名 <2011年12月末現在>
■ 創立年月日	1954年1月18日	■ 本社所在地	千葉県松戸市松飛台430番地 〒270-2280 Tel:047-710-1111(代表)
■ 事業内容	小型モーターの製造販売	■ 技術センター	千葉県印西市竜腹寺280番地 〒270-2393 Tel:047-710-1222(代表)
■ 資本金	207億481万円		
■ 代表者	代表取締役社長 亀井慎二		

業績報告 <2011年12月期>

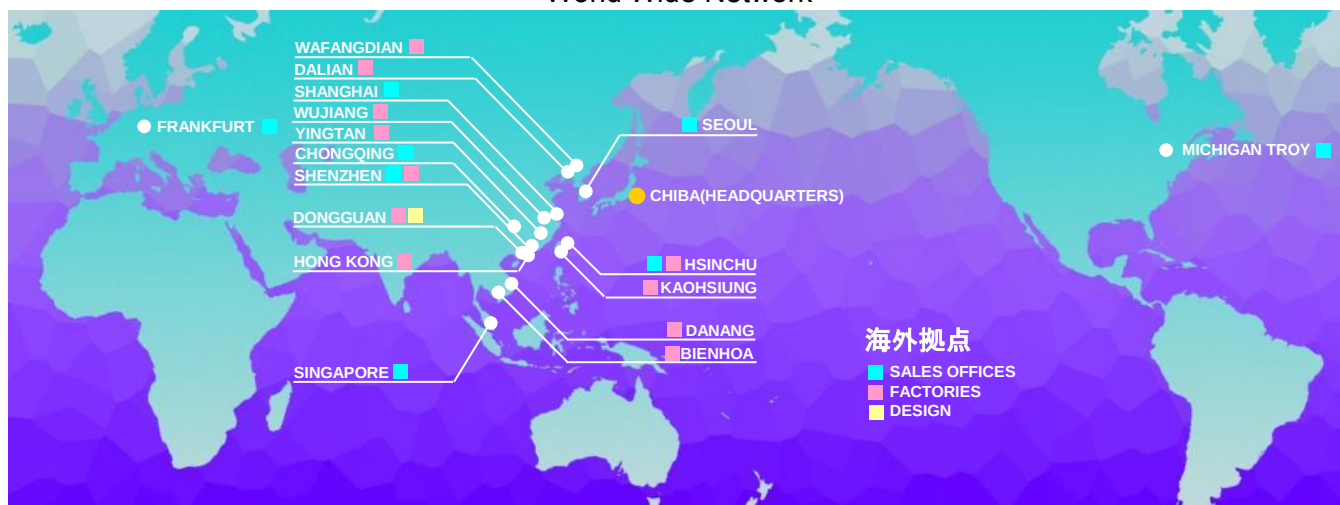
連結売上高・連結営業利益・営業利益率の推移



用途市場別販売金額



World Wide Network



<2011年12月末現在>

CONTENTS

■会社概要	1
■編集にあたって	2
■CONTENTS	2
■トップメッセージ	3

社会性報告

■コーポレートガバナンス	5
■コンプライアンス	6
■リスクマネジメント	7
■活気のある職場づくり	10
■ものづくり・教育に対する支援活動	13
■地域支援活動	15

環境報告

■環境マネジメント	17
■グリーン調達	18
■環境にやさしい製品づくり	19
■環境コミュニケーション	20
■CO ₂ 排出量削減の取り組み	22
■環境リスクマネジメント	23
■環境データ	24

編集にあたって

当社は、2001年に「環境報告書」の発行を開始し、2008年からは、報告書のタイトルを「環境報告書」から「社会・環境報告書」に変更し、合わせて掲載内容も当社の地球環境保全のための環境活動実績に加え、社会貢献活動実績の報告を始めました。

本報告書を通して、当社の企業市民としての社会的責任を果たす姿勢や状況についてご説明し、当社グループと関わるすべての方々とのコミュニケーションをさらに充実させ、よりよい今後の活動を目指してまいります。

なお、環境配慮の観点から、印刷物ではなく、電子化（PDF）した資料をホームページに掲載しています。

対象期間: 2011年度(2011.1.1～2011.12.31)

対象範囲: モーターの設計、製造、販売、サービスの提供に関わる環境活動及び社会貢献活動の内容

対象組織: マブチグループ

[本社] 日本・マブチモーター株式会社

[生産拠点]

- 中国
 - ・萬寶至實業有限公司(香港マブチ)
 - ・万宝至馬達大連有限公司(大連マブチ)
 - ・万宝至馬達瓦房店有限公司(瓦房店マブチ)
 - ・華淵電機(江蘇)有限公司(江蘇マブチ)
 - ・万宝至精工(東莞)有限公司(路東マブチ)
 - ・万宝至馬達(鷹潭)有限公司(鷹潭マブチ)
 - ・万宝至馬達(東莞)有限公司(東莞マブチ)
- 台湾
 - ・華淵電機工業股份有限公司(台湾マブチ)
 - ・萬寶至馬達股份有限公司(高雄マブチ)
- ベトナム
 - ・MABUCHI MOTOR VIETNAM LTD.(ベトナムマブチ)
 - ・MABUCHI MOTOR DANANG LTD.(ダナンマブチ)

[販売拠点]

- ・万宝至馬達(上海)有限公司(上海マブチ)
- ・万宝至馬達(上海)有限公司 重慶分公司(重慶マブチ)
- ・万宝至馬達貿易(深圳)有限公司(深圳マブチ)
- ・華淵電機工業股份有限公司(台湾マブチ)
- ・MABUCHI MOTOR AMERICA CORP.(アメリカマブチ)
- ・MABUCHI MOTOR (SINGAPORE) PTE.LTD.(シンガポールマブチ)
- ・MABUCHI MOTOR (EUROPE) GmbH(ヨーロッパマブチ)
- ・MABUCHI MOTOR KOREA CO.,LTD.(韓国マブチ)

発行: 2012年6月 (次回発行: 2013年6月予定)

誠実な企業活動こそが永続的な企業価値の拡大に繋がる



2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年数ヶ月が経ちましたが、被災された皆様の多くは今なお困難な生活を強いられています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。また、災害現場での復旧活動や原発事故対応など様々な問題解決のために、懸命な努力をされている関係者の皆様には、敬意と感謝の念を表したいと思います。

この大震災がもたらした被害は、戦後、我が国が経験をしたことのない深刻且つ甚大なものとなりました。そして、多くの方々の日々の生活のみならず、日本経済全体に長期間に亘り、大きな影響を及ぼすこ

ととなりました。

この大きな試練は我が国に災害復興にとどまらない大きな『変革』を求めているように思えてなりません。また、未曾有の国難に直面して、いま、企業には社会の公器として、営利よりも優先すべきことがあるということを思い起こすとともに、経済のグローバル化・ボーダレス化の中で、様々な国と地域が互いに協力し、助け合うことの大切さを教えられました。

■CSRへの取り組みについて

当社は、経営理念である「国際社会への貢献とその継続的拡大」を実現するために、企業活動を継続しております。お客様にご満足いただける、競争力の源泉となる製品やサービスの品質が大切なことは言うまでもありませんが、『誠実な企業活動こそが永続的な企業価値の拡大に繋がる』という基本的な考えのもと、社会的責任のあり方を重視し、環境保護に努め、透明性の高い事業活動を行うことをその根幹にしていまいりました。

当社が経営理念を制定した1960年代の日本の産業界は高度成長の真只中にあり、利益追求を最大目的としていた企業が少なかった時代でした。このような時代背景の中、当社は世界経済の発展と人々の豊かな生活の実現に貢献するために働くことを宣言し、国際社会への貢献を継続・拡大するために必要な公正かつ適正な利益を得ることを決めました。以降、私どもは、事業運営上の重要な意思決定に際して、この経営理念に照らして正しい判断と言えるかの検証を常に心掛けております。

また、企業の目的とは、本来、会社を構成する人々、会社に関わるすべての人々の幸せのためにあると考えております。それを実感として感じられる環境をつくり、これを永続しつつ雇用を守り、社会に貢献していくのが真のCSRであると考えます。

■地球環境への取り組みについて

地球規模での環境配慮へのニーズは益々高まっています。枯渇しつつある資源への対策、自然環境の保全、また、安心・安全の確保、心や身体健康増進といった人々の生活を支える環境についても深く考慮し対応していきます。

今年の夏も天候によっては、発電能力不足による電気の供給不安が予測され、社会全体が使用電力を制限されることになると考えられます。社員一丸となり、例え小さな削減であってもできることを一つひとつ着実にやっていきます。

また、生産現場においては、生産性向上・歩留り向上などを、従来の工法を新しい視点で見直し基から良くするものづくり、製造現場での豊富な経験を活かしつつ新しい発想による、環境負荷及び使用エネルギーをより削減できるものづくりに一層力を入れてまいります。

当社は、このように社会や環境を強く意識した健全な企業体質を強化し続け、誠実な企業活動を行い、社会的責任を果たすことで、皆様からの信用に応え、世の中に必要とされる企業であり続けたいと考えております。社員一人ひとりが、企業は社会に貢献するために存在し、社会への貢献とは、人々の幸せに寄与することであるという認識を持って活動してまいります。

ここに、当社の2011年における社会貢献活動や環境活動の実績をまとめた2012年版「社会・環境報告書」が完成いたしましたので、ぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今後とも皆様の温かなご理解とご支援のほど、よろしくお願いいたします。

2012年6月

マブチモーター株式会社
代表取締役社長

亀井 慎二

経営理念 国際社会への貢献とその継続的拡大

経営基軸

1. より良い製品をより安く供給することにより、豊かな社会と人々の快適な生活の実現に寄与する
2. 広く諸外国において雇用機会の提供と技術移転を行い、それらの国の経済発展と国際的な経済格差の平準化に貢献する
3. 人を最も重要な経営資源と位置付け、仕事を通じて人を活かし、社会に役立つ人を育てる
4. 地球環境と人々の健康を犠牲にすることのない企業活動を行う

経営指針

1. 汎用性を重視した製品を開発し、その最適生産条件を整備する
2. 価値分析に徹した製品の開発改良と部品・材料の共通化を徹底する
3. 高度加工技術とムダの極小化によるコストダウンを追求する
4. 新市場を開拓し適正占有率を確保する
5. 適材適所による人材の活用と業務を通じた人材育成を行う
6. 環境負荷の極小化と安全の追求を基本とした企業活動を推進する
7. 長期安定的視点に立つ経営施策を推進する

コーポレートガバナンス

■ 基本的な考え方

当社は、小型モーター事業を通じた「国際社会への貢献とその継続的拡大」を経営理念に掲げ、その実現にこそ存立意義があるものと認識しております。

- ① 経営上の意思決定と効率的な業務執行が明確な区分をもって行われ、責任の所在が明らかであること
- ② 適切な内部統制システムが構築され、運用されていること。すなわち、内部牽制システムと経営監視体制が有効に機能していること
- ③ 一般株主と利益相反のおそれのない独立役員が相当数選任され、経営監視機能の客観性及び中立性が確保されていること
- ④ 企業文化として、企業倫理とコンプライアンスの実践が、組織の社会的公平性を支え、すべてのステークホルダーに対する信頼と期待に応える基本であるという認識がグループの全員によって共有されていること
- ⑤ 株主をはじめとするステークホルダーに対し、適正、公平、適時、明瞭に企業情報の開示を行うとともに、取締役会・監査役会等によるアカウンタビリティが確保されていること

当社は、これらが確実に実践されるための各種機能をより充実させていきます。

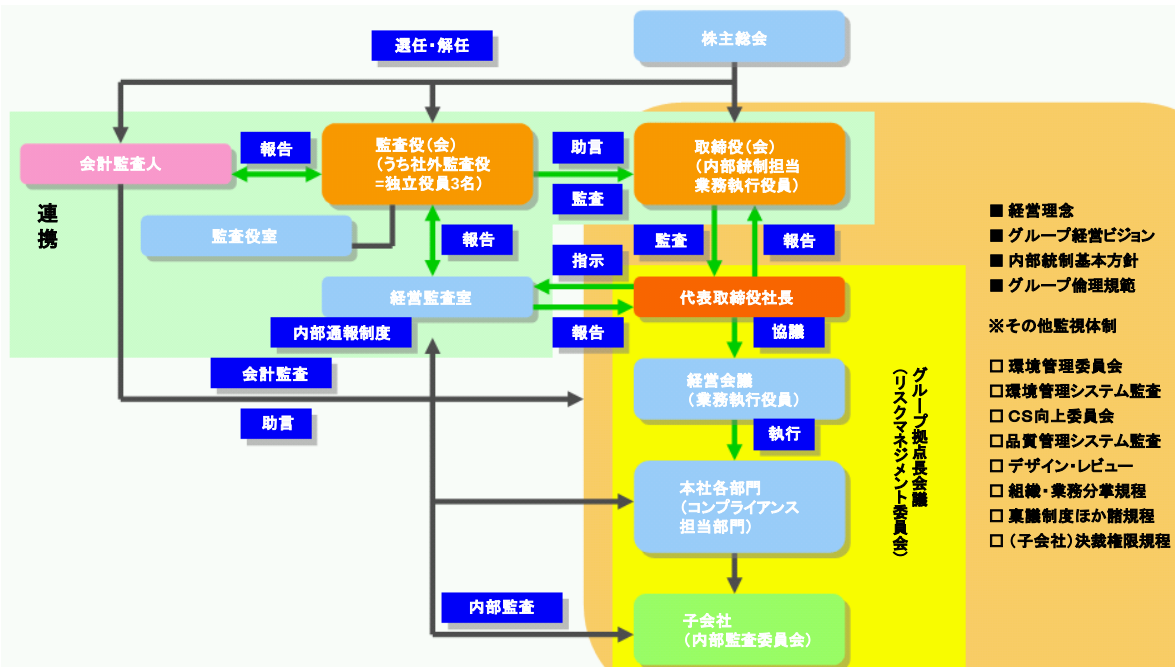
■体制・システムの構築

当社は、監査役制度を採用しており、会社法に規定されている会社の機関（独立役員を含む）、会計監査人等が、それぞれ法令に基づく機能を果たし、加えて当社独自で設置する経営会議、経営監査室（内部監査部門）その他の業務執行や内部牽制に係る組織によって当社ガバナンス全体の体制とシステムを構築し運営されています。

海外拠点においても、それぞれの国の法令等に基づく機関や当社の内部組織によって内部統制が実施されています。

グループ経営ビジョンを通してグローバルに企業文化や価値観を共有するとともに、海外拠点経営者会議をはじめとするマブチグループ全体の会議の開催や経営監査室による海外拠点の業務監査の実施などにより、マブチグループ全体の内部統制機能の向上に努めています。

また、当社は「内部統制基本方針」を制定し、リスクマネジメント体制やコンプライアンス体制の更なる強化、充実に努めています。



コンプライアンス

■ マブチモーター倫理規範

当社は、経営理念として掲げる「国際社会への貢献とその継続的拡大」を実現していく上で、各国・地域の法令・条例・規則などを遵守するのは勿論のこと、社会から求められる企業倫理に沿った事業活動を行うことを大前提としております。

そのため、それらの行動や判断の基準を定めた小冊子「マブチモーター倫理規範」を発行し、当社グループ全役員・社員に配付しています。同冊子は、時代とともに変化するビジネス環境に適応するため、適宜改訂しています。

倫理規範の中でも特に重要な項目については、ルールや手順を整備し、また、必要な対象者に教育・研修を行い、その周知を図っております。

海外拠点に対しては、2010年以降、中国、アジアの生産販売拠点で関係者を対象に研修会を実施し、当社は、コンプライアンスを重視した経営を目指していること及び新版「マブチモーター倫理規範」の周知徹底、さらに、「秘密保持及び機密保持」、「贈収賄と商業賄賂」といった個別テーマについての教育を行い、コンプライアンス意識の向上を図ってまいりました。

2011年5月には、コンプライアンス体制の一層の強化・充実を図るため、本社取締役会承認のもと、グループ全拠点においてコンプライアンス担当役員を設置しました。コンプライアンス担当役員は、本社の内部統制担当役員による統括の下、個々の拠点におけるコンプライアンス活動に関する責任者として、拠点内の内部牽制の強化と自律的かつ継続的なコンプライアンス活動の推進に関する中心的な役割を担います。

また、これらコンプライアンスに関する業務遂行の不備などの継続的な是正・改善を目的として、本社の

内部監査部門が、コンプライアンスに関するルールや手順の順守状況、その他の倫理に反する行為について、全海外拠点を含め、定期・不定期に監査を行い、その結果を経営トップに報告しています。

■ 倫理規範ホットライン

コンプライアンスに関する情報の伝達や相談について、通常のルート（上司や組織部門の窓口など）とは別に、内部監査部門が管理する匿名性が担保された「倫理規範ホットライン」を設置しています。

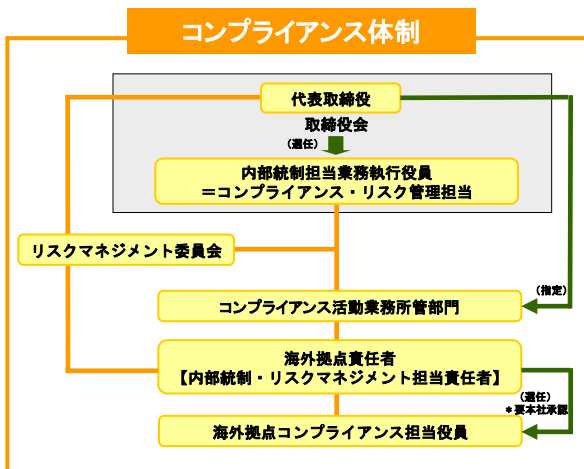
また、この制度の利用の如何に拘らず、公益通報者保護法を遵守し、相談者の不利益を発生させないことを会社が約束するトップメッセージを、役員を含む全社員に発信しています。

当社は、お取引先様とは日頃から誠実で公正なお取引引きと相互信頼関係の構築に努めていますが、社会的な不祥事が多発している情勢に鑑み、問題発生への未然防止ならびに拡大防止体制を強化するために2008年より、「倫理規範ホットライン」の対象範囲を、社員のみなさんのお取引先様の一部に拡大しています。



【倫理規範基本方針（概要）】

1. マブチグループのすべての役員・社員は、会社の利益や業務に優先して、会社所在国・地域の法令・条例・規則及び国際ルールを守ります。
2. お取引先様をはじめ、株主・投資家、地域社会など広範な利害関係者への責任を十分認識し、社会倫理に反する行為を厳に慎みます。
3. 法規則、社会倫理の中でも特に注意を要する事項に関しては、規程類などに明確に記載し、周知徹底を図ります。そして、全ての役員・社員は、これらを誠実に守ります。



リスクマネジメント

■ リスクマネジメント体制

当社が、経営理念を実現し社会的に有用な企業として永続的な成長軌道を確実なものにするためには、事業活動上の様々なリスクに対する適切な管理が求められています。

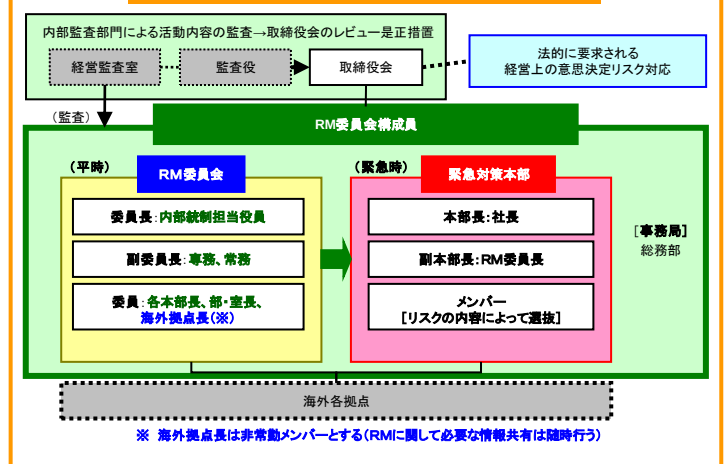
このため、当社は、リスク発生の未然防止やリスクが発生した場合の損害の最小化を目的としてリスクマネジメント委員会を設置し、当社グループ全体として最適な対応を可能とする体制を確立しています。また、この体制をベースに、緊急時における対応体制・方針・各種マニュアルなども整備しております。

リスクマネジメント委員会では、全組織的に対処すべき重大なリスクを①人命（安全）確保②情報セキュリティ③生産・供給停止④コンプライアンスに分類・特定し、それぞれリーダー部門を決め、経営陣と関連幹部社員とで連携を図りながら、マブチグループ全体でのリスク対策活動を継続的に実行しています。

また、各部門が業務上個別に抱えるリスクへの対応については、マブチグループの目標管理

制度に組み込まれ、トップマネジメントの承認、進捗管理の下、部門ごとに展開しています。

RM（リスクマネジメント）委員会の位置づけ



「品質会議」、「環境管理委員会」等の専門組織が認識する主要なリスクとその対応については定期的にRM委員会に報告。

<Column> 震災後の危機管理体制の強化

< 社内報記事より抜粋 >

震災当時、まず社員を安全に早く帰宅させることができたことはよかったと思います。元々、当社の建物は、災害を想定して免震構造に建て替えてありましたが、旧棟もキャビネットなどの転倒防止策を施してあったため、軽微な被害で済みました。このように普段からあらゆるリスクを認識し対応してきたからこそ、最悪のケースを免れることができました。

また、企業としては、お客様に迷惑をおかけせずに済んだということが何よりでした。生産が海外なので、現物は被災を免れたということもありますが、お客様・お取引先様の多大なご協力もいただき、生産本部が想定されるリスクを確認し迅速な部材入手などの対応をしたことで、生産への

影響を最小限に抑えることができましたし、営業本部も情報が入手しにくい中で、お客様の状況を確認し、状況を踏まえた最適な手段でデリバリなどの対応をしました。他部門も含め、全部門が非常によく連携して活動したことで大きな問題もなく対応できたと思います。こういった緊急時に瞬時に一丸となり対応できることも、当社の強みの一つと再認識いたしました。

震災後の管理体制の強化としては、震災時に課題として見えた「災害初動対応マニュアル」の改訂を早速行い、内容のポイントをしぼったものを「管理職の初期行動・指示マニュアル」として管理職に配付しました。

その他、ヘルメットや宿泊用寝具、外部情報収集手段（テレビ・ラジオ等）などの不足分の追加、加えて、各社事例・報道等を参考に備蓄品も含めて再確認し補充しました。

今後も、危機管理に関するマニュアルや情報を引き続き発信し、それに関する理解と周知徹底をしていきます。そして全社員が、常に安全意識と危機管理に関心をもち続けるような呼びかけ・活動をしていきます。

取締役 管理本部長 大越博雄
（リスクマネジメント委員会委員長）



2011年10月 防災訓練/緊急対策本部の様子

■ 災害対応マニュアル & 災害時用備蓄品

当社では、「管理職の初期行動・指示マニュアル」のほかに、「災害時一般社員行動マニュアル」(右上)の作成、「大規模災害発生時緊急対応カード」(右下)の配付、「安否確認システム(全社員対象)」の導入などを行うとともに、役員(緊急対策本部の設置・運営)はもとより、人事部門、総務部門(ビル管理業務委託先を含む)、情報システム部門などの災害時に重要な役割を担う部門において対応マニュアルを策定しております。

また、年に1回以上、防災教育や各種訓練(避難・通報・消火訓練、救急救護訓練、安否確認訓練、帰宅報告訓練ほか)を定期的に実施し、全社員が落ち着いて適切な行動をとれるように務めております。

さらに、災害時に必要な備品・資機材や飲食料、生活用品を備蓄し、災害発生時の安全確保や帰宅困難者に対する備えにも万全を期しています。特に、地下水を飲料水として日常的に使用している当社は、断水時にも相当量の飲料水が確保できることから、松戸市と給水協定を締結し、地域の被災者に対する給水支援を行える準備もしています。



「地震リスク対応計画(役員・幹部社員用)」 [一部抜粋]

<地震リスクマネジメントの基本方針>

- 人身の安全確保を最優先する。
 - 会社資産の保全と被害の拡大を防止する。
 - 地域社会への救援・支援に努める。
 - 海外拠点における営業活動及び生産活動を継続し、供給継続に努力する。
- 供給継続が困難となった場合、1週間以内に復旧する。

<資機材等の備蓄・管理>

- 帰宅困難者の発生に備えて、3日間生活できる分量の飲食料およびトイレ用水を備蓄する。
- 停電時の対策として、緊急対策本部運営およびコンピュータシステム保護のため必要な自家発電装置及び燃料(24時間稼働分)を備える。
- 災害時優先電話を本社屋に2回線常備する。
- 安全衛生委員会と協働し、設備・什器・備品等の転倒防止策を講じる。
- 施設・什器・備品等の復旧または応急措置、被災社員の支援、地域社会に対する支援を目的に、必要な機器・機材等を備える。
- 想定外の被害が生じ、または何らかの理由で社内生活が不可能となった場合に備え、近隣指定避難所の場所を確認しておく。



消防団員の方の指導で避難・消防・救助訓練(2011年9月)

■情報セキュリティポリシー

当社は、私どもの活動がステークホルダーの皆様にごのような影響を与えているかを真摯に見つめ、事業活動のあらゆる面で一層信頼される組織作りを目指しております。

当社は私どもが保有する情報資産の管理及び情報セキュリティ管理を適切に行い、情報の漏洩、改ざん、滅失、盗難等を防止することが企業の社会的責務の一つであると認識し、役員を含めた全ての従業員が情報セキュリティの必要性及び責任について理解を深めるとともに、ここに情報セキュリティポリシーを定め、情報セキュリティの確保に万全を期してまいります。

(体制)

1. 当社は、「リスクマネジメント委員会」を設置し、その活動を通じて、情報セキュリティに関する継続的な取り組み、評価、改善が可能な体制・仕組みを構築します。

(情報資産の保全・管理)

2. 当社は、情報資産を適切に分類、整理し、その重要性に応じた情報セキュリティ対策をとるとともに、情報の取り扱いについて細心の注意を払い、厳重に管理します。

(コンプライアンス)

3. 当社の役員、社員、その他の従業者（以下「当社の社員等」という）は、情報セキュリティに関する法令、社内規程及びお客様との契約上の義務を遵守します。

(教育)

4. 当社は、当社の社員等が情報セキュリティの重要性を理解し行動できるよう、必要な教育・訓練を継続的に実施します。

(本ポリシー等の見直し)

5. 当社は、法令や諸制度の変更、その他の社会環境の変化、社内外の監査の結果等を踏まえて、必要に応じて本ポリシー及び関連社内規程類の見直しを行います。

＜Column＞ 情報セキュリティ等の 社内教育を実施

2011年11月、情報セキュリティ及び文書・情報管理に関する社内ルール等の認知度を高め、これらの遵守・実践の徹底を図ることを目的とした社内教育（イントラネットによるeラーニング（Q&A方式））を実施いたしました。各自テストが終了すると、自動的に採点結果（正解と説明）やテストにかかった時間や点数が表示され、認識を深めました。

実施対象者：738名（受講率 100%）

平均点：全体平均 92.02点/100点

■「倫理規範」基本方針

（関係）各国・地域の各種法令・条例・規制などを遵守し、社会倫理に沿った事業活動を行うことを大前提とした「国際社会への貢献とその継続的拡大（経営理念）」の実現を目指します（以下「コンプライアンス（6頁）」の記事をご参照ください）。

■個人情報保護方針

マブチモーター株式会社（以下「当社」という）は、個人を識別し得る情報（以下「個人情報」という）を適切に取扱い、保護することを当社の重要な責務であると認識し、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

1. 個人情報保護の社内体制

当社は、業務上使用する個人情報について、その適正な取扱いを実現するための社内体制を構築します。

2. 個人情報の適切な取得及び利用について

当社は、個人情報の取得に際しては、利用目的をできる限り明確にし、適法かつ公正な方法によって取得します。また、取得した個人情報は、特定した利用目的の範囲内でこれを利用します。

3. 個人情報の第三者への非開示について

取得した個人情報は、以下の場合を除き、第三者に提供、開示しません。

①ご本人の同意を得た場合

②個人情報の取得時にご本人に通知または公表した利用目的の達成に必要な範囲内で、当社の子会社、代理店、秘密保持契約を締結した業務委託先に提供、開示する場合

③法令により開示が認められている場合

④その他、法令等に照らして必要があると判断した場合

4. 個人情報に関するお問合せへの対応について

当社は、ご本人からの個人情報に関するお問合せについては、所定の窓口にて対応いたします。

5. 個人情報の安全管理について

当社は、保有する個人情報の紛失、改ざん、漏洩を防止するため、必要なセキュリティ対策を行います。

6. 役員・従業員等への教育について

当社は、当社の役員・従業員等（契約社員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員を含む）が個人情報の重要性を理解し、適切に取扱うよう教育、啓蒙活動を実施します。

7. 個人情報に関連する法令等の遵守について

当社は、個人情報の取扱いに関して、個人情報の保護に関連する法令、規範を遵守します。

8. 個人情報保護の取組みの継続的な改善について

当社は、個人情報の保護に関する取り組みについて、継続的な改善に努めます。

活気のある職場づくり

当社は、経営基軸の一つに「人を最も重要な経営資源と位置付け、仕事を通じて人を活かし、社会に役立つ人を育てる」を掲げ、企業経営を通じて忠実に実行しています。そして、海外拠点も含め、社員としての基本的権利を尊重し、適切な処遇を保証するとともに、社員が働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいます。

■人事評価制度

当社の人事評価制度は、会社業績に貢献するために社員の力を結集させていくマネジメントツールの一つですが、人材育成のツールとしても積極的に活用しています。この制度は、様々な役割を果たす社員一人ひとりの貢献を的確に把握し、会社の成長と社員の成長がともに実現できることを目指し構築されています。

当社は、社員の貢献度を的確に評価に反映させるため、上司と部下のコミュニケーションが重要であると考え、日常的な会話だけではなく、中間、期末評価面談を制度として設け、密なコミュニケーションを図るようにしています。

■自己申告制度

社員一人ひとりのやる気と能力を引き出し活用するためには、「適材適所」と「職場風土醸成」が重要です。それを検討し実現する上での必要情報として、社員の職務に対する意識を把握することを目的とした定期的な社員の自己申告を実施しています。

■資格取得奨励制度

社内に「自ら学ぶ風土」を醸成し、業務遂行に役立つ知識を幅広く習得することを狙いとして「資格取得奨励制度」を設け、自己啓発を促進しています。

■短期実務交流制度

マブチグループ全体の一体感醸成、総合力アップを狙いとして、海外拠点の人材を積極的に本社に派遣し、実務交流を図る「短期実務交流制度」を、2009年から実施しています。

具体的には海外拠点スタッフの本社への出張機会を意識的に設け、実務を通じた交流により、考え方の共有・協働意識の醸成を促しています。今後もこの制度を充実させながら、継続的に実施していきます。

■英語力向上に向けた教育支援制度

社員が国際社会への貢献を具現化できるよう、会社全体で英語を学習する風土づくりと各種施策を行っています。その一つとして、社員が自分のレベルに合わせて目標を掲げて、年に一度挑戦する「TOEIC受験」の機会を提供しています。その他に、一定以上の英語力がある社員に対し、ビジネス英語を学ぶために海外語学学校への「短期留学制度」を設けたり、欧米販売子会社にて業務を遂行することで実践の場でビジネス英語を向上させることができる「トレーニー制度」を行っています。



TOEIC受験

<Column> 実務交流制度を終えて



Mr. Peter Racine
(アメリカマブチ副社長)

本社の皆さんは、全てにおいて一つひとつの業務を丁寧に行い、品質向上に努め、仕事に対する倫理観の高い集団だと感じました。また長い歴史があり、製造業としての“ものづくりスピリッツ”を持ち、それは、これからの発展を担っていく一つの財産だと思います。

私としては、複数の部門にまたがる多くの人脈を構築できたことが一番の収穫です。今後の業務に活かしていきたいと考えます。

<Column> 短期留学制度の経験を活かす！

イギリスのケンブリッジにある語学学校へ約2ヶ月間留学という貴重な機会を与えていただき、とても感謝しています。

ホームステイ先のファミリーや生徒仲間との会話などまさに「英語漬け」の日々を送り、普段知り合えないような職業や国籍の方々との交流もでき、大変よい刺激になりました。

留学後すぐにヨーロッパマブチへ出向となりましたので、留学中に学んだことがそのまま業務に直結して活かれます。欧州のお客様及び現地スタッフとの円滑なコミュニケーションを通じ、強固な信頼関係を築くことが当面の目標です。

高島篤史(現ヨーロッパマブチ勤務)



■従業員が学び成長できる研修制度

会社が行う教育（研修）制度は、学校とは違う、社員自らが学ぶ意識を持つことに気づく場と考え、研修を受けた社員が、自律性を持ち、自ら学び成長していくための一つのプロセスと考えています。そのために、下記のような社員のレベル（資格等級など）に合わせた研修・講座を随時行っています。

- 新入社員研修：基礎を学ぶ・海外生産拠点にも派遣
 - 若手中堅職研修：入社後の知識を再点検し、中堅社員として業務で部門や会社を代表したり、後輩の模範となる立場を全うすることができるようにする
 - 中堅職研修：実務能力を活かし職場全体の意識向上を図るリーダーシップがとれるようにする
 - 監督職研修：経営方針を十分に理解し、組織のマネジメントができる人材づくり
 - 経営戦略講座：経営マネジメント力強化
 - カタリスト塾：外部の方による講演会 など
- また、このほかに社員の自己啓発のため、通信講座支援や、各部門でそれぞれの業務に特化した教育を行っています。

■心と身体の健康への取り組み

社員の心と身体が健康でいきいきと働けることが、社会生活の基礎であり、合わせて企業の活力向上につながると考え、20年以上前よりメンタルヘルス調査を実施するとともに、社内カウンセラーの設置や、「メンタルヘルス講習会」の開催など、「心の健康」維持に取り組んでいます。

また、人間ドックを受診希望する35歳以上の社員に対し、受診費用の3分の2を補助し、健康診断後に産業医による健康相談を行っています。また、生活習慣病予防のための「社員健康教室」を定期的を開催しています。



メンタルヘルス講習会



健康教室

■ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス＝仕事と生活の調和」を保つために、次のような取り組みを行っています。

厚生労働省が奨励する「ファミリー・フレンドリー施策」を展開し、仕事と育児・介護が両立できるような環境づくりのため次の施策を整備し、社員が活用しています。

また、同様の趣旨である千葉県主催の「社員いきいき！元気な会社宣言」活動にも賛同し、2008年に宣言企業として登録をしました。

- ・育児休業（3年）
- ・育児休業中の自己啓発支援
- ・配偶者出産時休暇制度：取得率100%
- ・不妊治療のための低利融資制度
- ・ベビーシッター育児支援割引券の利用
- ・介護休業（1年）
- ・介護休業中の自己啓発支援
- ・育児・介護のための勤務時間短縮や所定外労働免除などの措置の導入

■家族参加型イベント ガーデンパーティ

本社では経営者と社員・OB、さらにその家族までもが有機的なつながりを確立し結束力を強め、心を通じ合わせることが重要と考え、毎年秋に、家族を本社グラウンドに招待し「ガーデンパーティ」を開催しています。

管理職や社員による出店やゲーム、大抽選会を楽しむ子どもたち



■社内スポーツ大会の開催

社員の健康を促進、社員同士のコミュニケーションを図るために、定期的に社内のスポーツ大会を開催しています。



所属対抗ボウリング大会

活気のある職場づくり(海外拠点)

■ よりよい労使関係の協調を

大連マブチは大連開発区に在籍する外資系企業の中で、もっとも早く労組を設立しました。以来、労組を通じて、社員の雇用、給与及びその他の権利（福利厚生）が保障されています。

2011年、大連マブチは金州区総工会より、給与問題集団協議優良企業と表彰されました。



給与問題集団協議
優良企業表彰状

■ 社員図書室の開設

大連マブチは、社員が余暇を充実させ、また読書を通じて知識・心の成長を図るため、社員寮内に図書室を開設しました。現在、各種図書11,800冊以上、新聞や雑誌20種類以上を保有しています。また、無料で使用できるパソコンを100台以上設置しています。

2011年、中国全国総工会（労組）に「全国総工会モデル従業員図書室」と表彰されました。



図書室を利用する
大連マブチ社員

■ 社員語学教室の開催

ダナンマブチでは、社員が日本語の勉強に取り組みやすいように、「語学教室」を開講しています。

日本語教室
(ダナンマブチ)



■ 社員旅行・スポーツ大会の実施

台湾・東莞マブチをはじめ、各拠点では社員の愛社精神及び一体感を醸成するため、定期的にスポーツ大会や社員旅行などを開催しています。



社員旅行(台湾マブチ)



バドミントン大会
(東莞マブチ分公司)

■ 社員が楽しめるイベントの開催

江蘇マブチでは、毎年全従業員を招待してお正月を祝うパーティを開催しています。



正月を祝うパーティ
(江蘇マブチ)

ベトナムマブチでは、社員同士のコミュニケーションを高めるために、社員旅行の他に、アオザイ大会や、調理大会、サッカー大会などさまざまなイベントを開催しています。



左: 調理大会 / 右: アオザイ大会 (ベトナムマブチ)

ものづくり・教育に対する支援活動

当社は、地域社会・国際社会への支援活動を通じて、経営理念「国際社会への貢献とその継続的拡大」を実践し、社会の発展に貢献しています。中でも、未来を担う学生・子どもたちに「ものづくり」や「理科」の楽しさを伝え、成長をお手伝いできる活動に力を入れています。

■ ロボコンへの協賛

当社は、未来を担う若き技術者の育成と科学技術の発展に寄与できることを願い、社会貢献の一環として、継続的に「大学ロボコン」「ABUロボコン」「高専ロボコン」に協賛し、大会運営支援やモーターの提供などを行っています。

◇高専ロボコンへのモーター支援 約1200個



ギヤヘッド付RS-555VC(上)
ギヤヘッド付RS-385PH(下)

JC/LC-578VA
他



香港科学技術大学にマブチ
賞を授与(ABUロボコン)



大学ロボコン2011



高専ロボコン2011

■ 理科出前授業

「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」（平成20年度経済産業省委託事業）の主旨に基づき、社会貢献活動の一環として、当社社員による「出前授業推進チーム」を発足、本社所在地域の小学校を対象に、継続的に活動しています。

2011年は、江蘇マブチ社員による中国蘇州日本人小学校への出前授業も開催しました。



(本社)



(江蘇マブチ)

■ 夏休み工作教室

本社所在地域の子どもたち（小学4～6年生）を対象とした「夏休み親子モーター工作教室」を毎年開催しています。この教室は、当社の社員が講師を務め、モーターと身近な材料を使った、動くリサイクル工作を、親子で協力して制作していただくものです。毎年全員が完成し、自分の工作を動かして喜ぶ声があがります。



■ 職場体験

本社では、地域小学校のキャリア教育の一環で行われている職場体験を継続的に受け入れています。児童は、無響室や温度槽の見学、モーターライフ測定などを体験しました。



■ インターンシップ制度

これから社会に出ていく学生に就業体験の機会を付与し、働くことを実感し、当社の理念の理解を深めるインターンシップ制度を行っています。

2011年は米国の大学から1名を受け入れました。



■ 科学技術館での展示、イベント協賛

1983年より科学技術館（東京都・千代田区）にて常設展示を行い、モーターの基本原理や私たちの暮らしの中で活躍しているモーター、モーター工作などをわかりやすく紹介しています。また、同館で開催されるイベントにモーター提供などで協力しています。



科学技術館の当社ブース



実験教室にモーターを提供

■ 奨学金及び校舎建設の支援

大連マブチでは、1996年から地域の小学生から大学生までの生徒に対して、校舎の建設や奨学金の支給などの教育支援を行っています。



大連マブチ希望小学校への図書寄贈



奨学生たちによる記念植樹



大連マブチ希望中学の竣工

地域支援活動

当社は、地域の環境保護、自然災害による被災後の復興活動、及び社会福祉活動などへの支援活動を継続的に実施しています。

東日本大震災への復興支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災に対して、被災された方々の救済や被災地の復興に役立てていただくために、当社は5,000万円の義援金を贈りました。同時に、本社及び海外子会社の従業員からも義援金が多数寄せられ、被災地に届けられました。



赤十字に義援金を届けた片山総経理・劉副総経理他
(広東マブチ/現東莞マブチ)



赤十字に義援金を届けた
大連マブチ社員



本社に設置された義援金募集箱

植林・美化活動

当社グループでは、工場周辺やその地域の清掃、美化活動を行い、緑化にも積極的に取り組んでいます。



(広東マブチ/現東莞マブチ)



(高雄マブチ)



(台湾マブチ)

貧困地域への支援活動

当社グループでは、貧困地域への募金・衣服支援活動を継続的にを行っています。



(広東マブチ/
現東莞マブチ)



■ 献血活動

当社は、積極的に献血活動に協力しています。



本社



(広東マブチ/
現東莞マブチ)



台湾マブチ

■ 社会福祉支援活動

当社グループでは、定期的に、児童養護施設や老人ホームへの慰問活動を行っています。



児童養護施設への慰問活動
(ベトナムマブチ)



恵まれない子どもが安全に暮ら
せる施設「希望の村」への寄付
活動(ダナンマブチ)



ハンセン病患者者病院への慰問活動
(広東マブチ/現東莞マブチ)



老人ホームへ慰問活動
(大連マブチ)

■ 海の原油汚染浄化への支援活動

2011年7月16日、大連市新港付近の石油パイプラインの爆発事故があり、この事故により、原油漏れが発生し、周辺100kmの海に原油汚染が広がりました。この汚染を除去するために、大連市政府を中心に緊急浄化活動が実施され、大連マブチ社員の環境ボランティア達もこの活動に参加し、原油汚染浄化活動に貢献しました。



■ 国際・地域文化交流への支援活動

当社グループでは、地域とのコミュニケーション、国際交流の支援のために、各種イベントに参加・協賛をしています。



日独交流150周年記念イベント「ジャパン・ウィーク」に協賛(ヨーロッパマブチ)



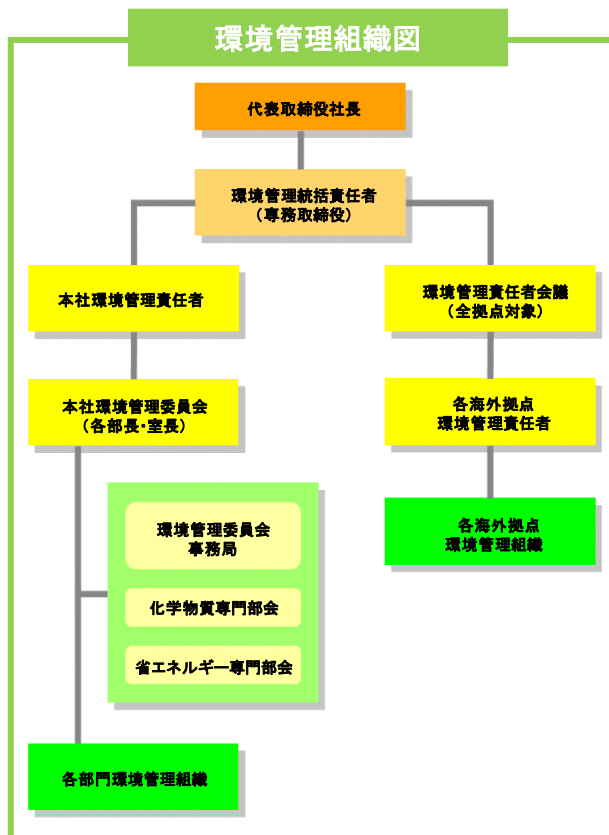
東莞市政府が主催した市民活動に参加
(広東マブチ/現東莞マブチ)

環境マネジメント

当社は、1999年より全グループに「環境マネジメントシステムISO14001」を導入し、認証を取得しています。また、全グループ及び、本社・各拠点・各部門において環境目標を設定、徹底したPDCA管理により、積極的に環境マネジメントに取り組んでいます。これからも環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進し、高いレベルの環境保全活動を実施していきます。

■ 環境マネジメントシステムの構築

当社は、専務取締役が環境管理統括責任者として、グループ全体の環境マネジメントシステムを管理しています。本社には、環境管理委員会を設置し、この環境管理委員会は環境管理統括責任者が委員長となり、本社環境管理責任者及び各部長で構成され、マブチグループの環境方針、目標、施策などの審議、決定を行います。また、環境管理委員会の下には、化学物質専門部会、省エネルギー専門部会を設け、それぞれ専門的な施策立案を提案し環境保全活動を推進しています。



■ 環境監査

当社の環境マネジメントシステムがISO規格の要求と合致しているか、有効に運営されているかについて、毎年、審査登録機関（第三者）及び社内の監査部門により監査を行っています。

これらの監査を通じて、環境管理レベルの継続的維持・向上を図っています。

マブチモーター環境基本方針

1. 地球環境に配慮した企業活動を行うための環境マネジメントシステムを確立し、継続的改善に努める。
2. 環境関連の法規制及びその他の要求事項を遵守するとともに、積極的に自主基準を設定し管理する。
3. 限りある資源を最大限有効に活用するために、省エネルギー、リサイクル及び廃棄物の減量化に積極的に取り組む。
4. 環境に負荷を与える物質は可能な限り代替物質への転換を行う。
5. 従業員の環境に対する意識の高揚を図るため、積極的な教育・広報活動を行う。
6. 環境方針は全従業員に周知するとともに、必要に応じて外部の利害関係者にも開示する。

■ 環境教育

当社の全ての従業員の環境に関する意識、能力の向上を図るために、階層別、目的別の環境教育・訓練システムを構築し、実施しています。



環境教育実施(大連マブチ)



審査登録機関による環境監査の実施(本社:技術センター)

グリーン調達

当社は、製品に使用する部材を採用するにあたり、法令、規制、お客様要求に加え、当社独自の基準を設け、これらの基準に定めた環境禁止物質について厳格に管理運用を行っています。

■グリーン調達の推進

下図にありますように、お取引先様には、グリーン調達活動を実施いただき、環境活動調査表に加えて、部品・材料に環境禁止物質が含まれないことを保証する書類を提出していただいています。お取引先様の選定にあたっては、従来より実施していた品質、コスト、納期に加え、お取引先様の各種の環境への取り組み状況も評価しています。

また、日常のお取引様とのコミュニケーションや、環境負荷物質の使用・保管状況の監査活動を積極的に行っております。

これらの活動を通じて、2006年度の欧州RoHS指令の施行から現在に至るまで、お客様からの環境クレームは発生しておりません。

2011年6月に、新規のお取引先様を中心に中国の広東省東莞市、及び江蘇省の呉江市にて、「第2回マブチモーターグリーン調達説明会」を開催しました。その説明会において、マブチの環境禁止物質に関する管理要求を明確にした上で、リスクを極小化するためにグリー

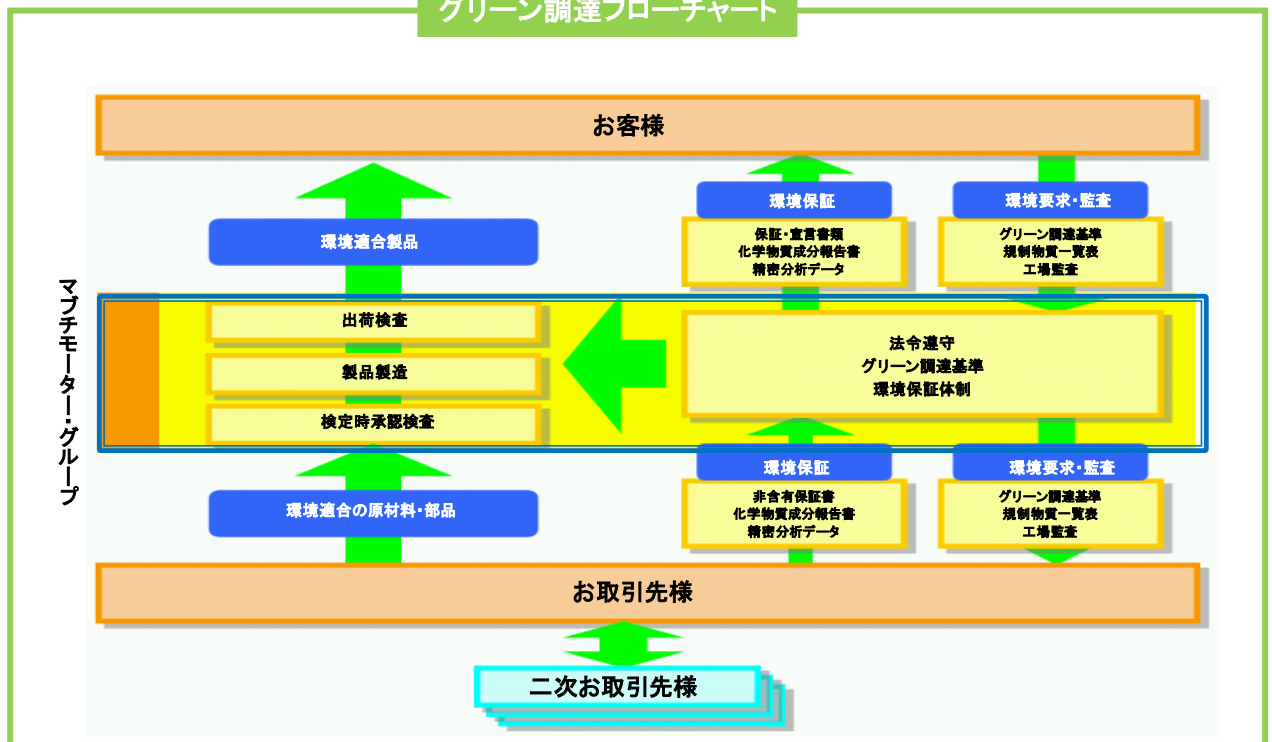
ン調達の徹底をお願いしました。この説明会の開催により、当社のグリーン調達体制がさらに強化されました。

今後も、グリーン調達活動を進めていきます。



第2回マブチモーターグリーン調達説明会
(江蘇マブチ)

グリーン調達フローチャート



環境にやさしい製品づくり

当社は、「小型直流モーター」の専門メーカーとして、様々なニーズに応えながらモーターの持つ新たな可能性を追求し、市場を革新するモーターを開発・提供してきました。モーターの品質・性能の向上は当然の研究テーマであります。モーター製品に有害な物質を含まないことや、省エネ、省資源、長寿命といったモーターのライフサイクル全体を通じて地球環境保全への貢献にも取り組んでいます。

■レアアースフリーモーターの開発

近年、エレクトロニクス製品の性能向上に必要不可欠とされるレアアースの供給不足が深刻な問題になってきています。

2011年に生産・販売を開始しました電動工具用モーター「RZ-735VA」は、近年の電動工具市場での、作業性を重視した小型・軽量で高出力な製品のニーズ動向に応え、価格が不安定なネオジウム等のレアアースを使用せずに、当社従来製品（RS-775VC/WC）と同等性能を維持しながら、体積・重量を4分の3に小型・軽量化しました。

また、2012年より欧州向け電動工具に適用される電気ノイズ規格にも標準対応しております。

当社は、今後もレアアース使用量の低減及び、モーターの小型・軽量化に努めてまいります。



従来製品RS-775VC/WC(左)との比較

■小型・軽量化により

自動車の環境性能をアップ

自動車各メーカーは、低燃費、CO₂排出量の削減のため、車体の軽量化に取り組んでいます。

当社は、2011年にパワーウィンドウ用モーター「GA-558RN/LN」の販売を開始いたしました。

この製品は、当社が従来より強みを持つ「小型・軽量設計」と「低価格」を追求し、さらに車載電子機器の正常な動作に不可欠な電気ノイズ対策や、安全性を考慮し、挟み込み防止機能にも対応可能な製品となっております。

当社モーターの小型・軽量化により、自動車の低燃費・CO₂排出量削減に貢献することで、環境にやさしい製品づくりの一端を担っています。



樹脂出力軸タイプ
(ケーブル式用)

金属出力軸タイプ
(アーム式用)

<Column> 開発者の声

環境対応を含む高付加価値化を目指す！

既存機種と同等性能を維持したまま、小型軽量化、レアアースフリーを実現することは、非常にハードルが高かったのですが、新しい磁気回路構想や、生産工程の大幅削減など、全関係部門と協業して努力した結果、量産を実現できました。

今後、用途を問わず、サイズを問わず、同様の良品設計のオリジナル製品の開発を続け、人にも会社にも、環境にもやさしいモーターの生産が拡大するようにしていきたいです。



<Column> 開発者の声

小型・軽量化とコストダウンを実現！

すでに市場実績を積んだ既存機種の特徴（軽量・静音・ローコスト）を活かしながら、市販コネクタ形状に対応し拡張性を向上させるとともに、VAによりさらなるコストダウン・小型・軽量・高性能化を図りました。車体の軽量化により、低燃費、CO₂排出量削減ができることで、環境にも対応できてうれしく思います。



環境コミュニケーション

当社はさまざまな媒体を通じて、環境理念や環境マネジメント活動の情報を社内外に向けて発信しています。これらの活動を通じて、社員にはもちろん、お取引先様をはじめ、ステークホルダーの皆様へ、当社の環境保全への姿勢、取り組みへの理解を深めていただけるようにしています。

■社会・環境報告書の発行及びホームページによる環境情報発信

マブチグループは、2001年より「環境報告書」（2008年に社会・環境報告書に変更）を作成し、当社ホームページで公開し、当社の社会貢献、環境保全活動の実績を報告してきました。

また、最新の環境活動情報や、環境対応モーターの販売開始情報もホームページを通して発信しています。

一部の海外拠点においては独自の環境報告書を発行しており、大連マブチが発行した「持続可能な発展報告書」は、2010年及び2011年と連続で、大連市環境保護局より大連市最優秀報告書に選出され、表彰されました。

■環境コミュニケーション活動の展開

会社所在地近隣のお客様、住民、企業及び行政など幅広いステークホルダーの皆様に対し、環境コミュニケーション活動を積極的に推進しています。



町で市民に環境保全活動を紹介
(広東マブチ/現東莞マブチ)



開発区の外資系企業を対象に、「企業の環境保護活動のあり方について」の講演を実施(大連マブチ)

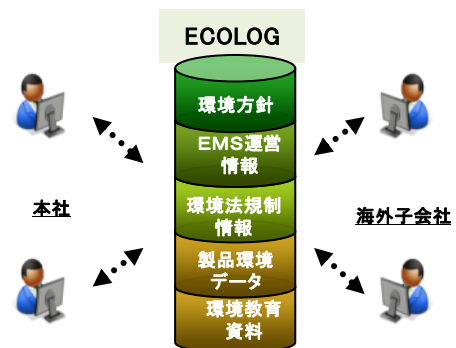


ホームページ環境・社会貢献活動情報/左
大連マブチ発行の環境報告書/右

■社員との環境情報共有

マブチグループ内の環境情報の共有化を図るため、社内イントラネット上に「ECOLOG」というデータベースを作成し、運用しています。本社をはじめ世界各地のマブチグループの社員が、このデータベースを通して、様々な環境情報を共有しています。

また、社内報を活用し、定期的に環境特集を掲載、当社の環境対応の現状や、最新の環境情報を紹介して社員の環境意識の向上を図っています。



社内報の記事

■環境を考える標語・ポスター作品コンテスト

社員の環境意識の向上を図るために、2006年よりマブチグループ全体で「環境を考える標語・ポスター作品コンテスト」を毎年開催しています。

2011年度の受賞作品

◇標語部門

多關一盞燈，少印一張紙，節約無小事，行動靠大家！

一台の電灯でも消し、1枚のコピーでも減らす。節約は細かいことから、行動は私たちから。
(広東マブチ/現東莞マブチ)

用热情关注环境，用勇气改变习惯，用智慧实现节能。

情熱をもって環境を見つめ、勇気をもって習慣を変え、知恵をもって省エネを実現しよう。
(広東マブチ/現東莞マブチ)

Thiên nhiên vẫn sống khi không có con người nhưng con người không thể sống khi không có thiên nhiên

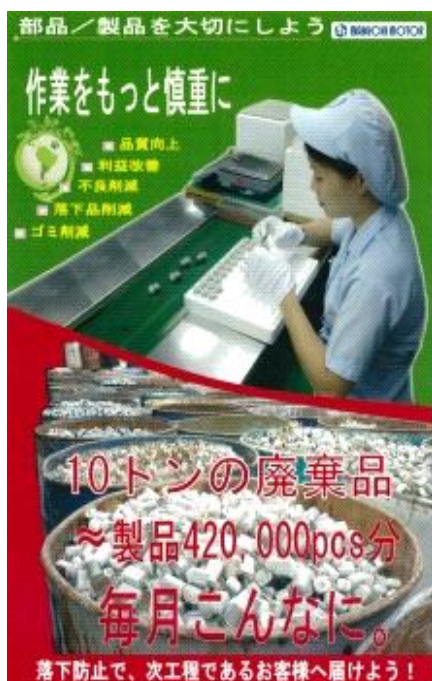
自然は私たちを必要としない。だけど私たちは自然無しでは生きられない。

(ベトナムマブチ)

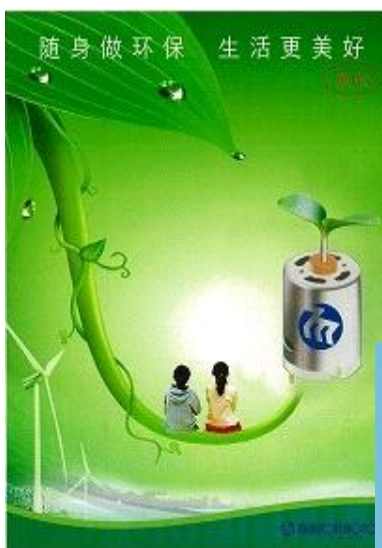


2011年度コンテスト受賞作品の本社展示

◇ポスター部門



「部品／製品を大切にしよう！」
(ベトナムマブチ)



「エコを心がければ、暮らしはもっとよくなる！」
(広東マブチ/現東莞マブチ)



「環境保護と省エネ」(広東マブチ/現東莞マブチ)

CO₂排出量削減の取り組み

当社は、地球温暖化を防止するために、海外生産拠点を含むマブチグループ全体で、継続的に様々な対策を実施しています。当社におけるCO₂排出は、主に電気使用によるため、特に電気使用量の削減に注力しています。

■ 本社での取り組み

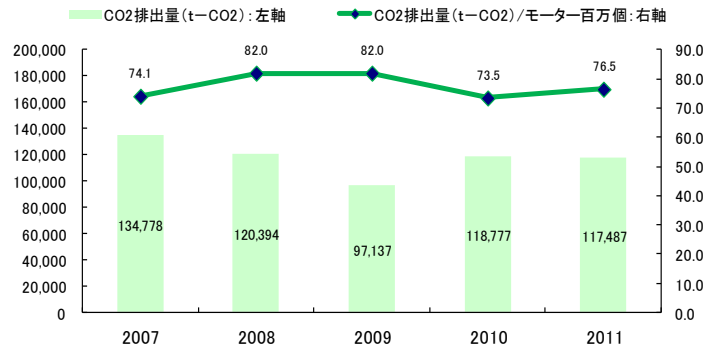
本社では、長年節電を実施していましたが、2011年3月11日の東日本大震災の影響を受けた電力不足の対策をきっかけに、さらなる節電対策を展開し、2011年の電力使用量及びCO₂排出量は、それぞれ前年度より11.0%、11.2%削減できました。一部の施策は、震災対策に留まらず、今後もCO₂削減対策として継続的に実施していきます。



照明本数及びコピー機
使用台数の削減



マブチグループCO₂排出量推移



※このグラフはマブチモーター本社及び主な海外生産拠点のデータを元に計算したものです。



社内自動販売機
稼働台数の削減



熱源を省エネ型に交換

■ 海外拠点の取り組み

海外生産拠点では、生産工程や生産設備の改良、工場ユーティリティ設備の省エネ対策などにより、CO₂排出量削減に継続的に取り組んでいます。

2011年、様々な省エネ活動の継続的な推進により、江蘇マブチは、江蘇省吳江市よりグリーン生産工場表彰を受賞いたしました。



グリーン生産工場表彰を受賞
(江蘇マブチ)



工場の屋上緑化活動により、工場内の
景観の改善と空調電力の使用量を大幅
に削減(広東マブチ/現東莞マブチ)



工場屋上に遮熱工事を実施し、夏
期の室内温度が工事前より36%低
下、空調電力使用量を大幅に削減
(江蘇マブチ)



屋上に太陽熱温水器を設置し、
工場内給湯器湯沸しに使用する
ガスの使用量を削減
(ベトナムマブチ)

環境リスクマネジメント

当社は、環境汚染防止のため徹底した化学物質の管理を行い、使用状況を把握するとともに緊急時の対応が速やかに行われるように訓練しています。また、土壌・水質汚染の調査・分析を行い、過去に使用した有害化学物質の残留が検出された場合には、速やかに適切な対応をしています。

■緊急事態発生時の対応訓練

本社及び各海外生産拠点では、緊急事態発生時の環境汚染の予防・拡大防止のため、各自の業務特性に合わせて、様々なケースを想定した緊急時の処置・通報訓練を年一回以上の頻度で実施しています。



ガス貯蔵設備火災時の保護対策訓練
(大連マブチ)



緊急事態発生時の油類漏洩
防止訓練（本社/技術センター）

■土壌浄化の取り組み

2002年、自主調査により本社敷地内の一部の土壌から環境汚染物質が検出されたため、管轄行政（松戸市）に汚染状況を届け、土壌の浄化作業を開始しました。

2004年には、子会社の工場閉鎖に伴う土壌汚染状況の調査からも環境汚染物質が検出されたため、管轄行政（群馬県）に届けるとともに、土壌の浄化作業を開始しました。

上記2ヶ所における高濃度汚染域の浄化は完了しており、現在は低濃度の汚染域の浄化を継続して行っております。

2011年は原発事故に起因する電力不足に対する節電施策を実施しながらの浄化作業となりましたが、各測定値に改善傾向が見られたため、現在の浄化方法が有効であると判断し、継続して実施しています。

この浄化作業の実績及び今後の方針について、当社は毎年定期的に松戸市及び群馬県の行政機関に報告し、了解を得た上で次年度の浄化に着手しています。

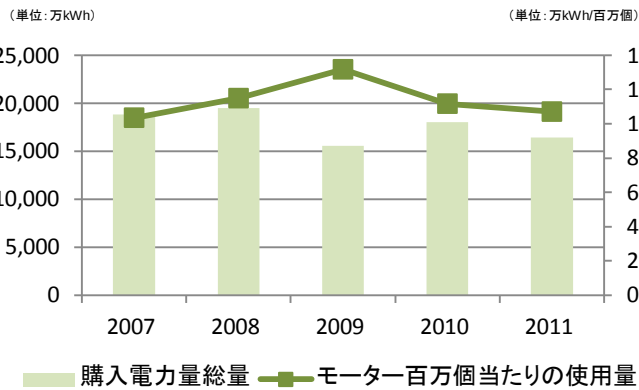
今後も引き続き着実に汚染浄化に取り組んでまいります。



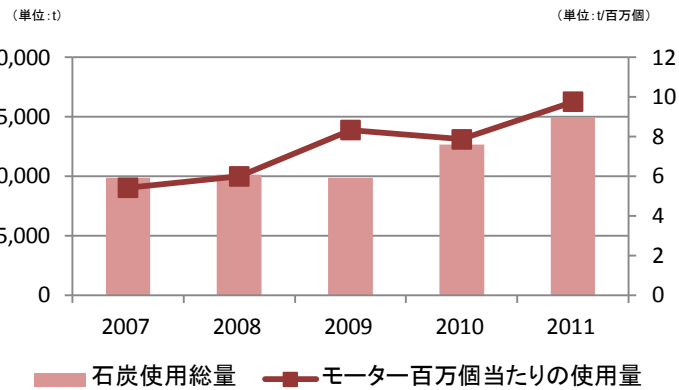
本社敷地内に設置された土壌浄化装置

環境データ

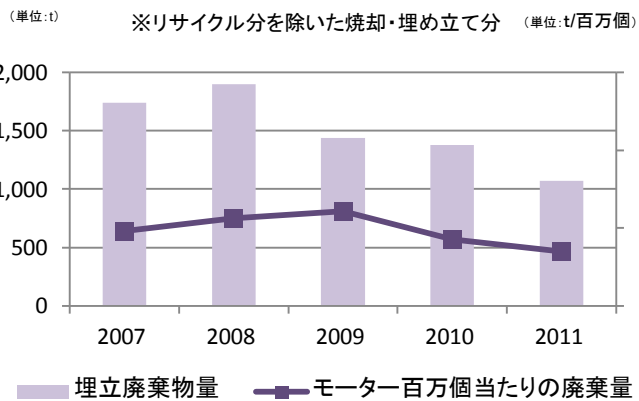
購入電力使用量



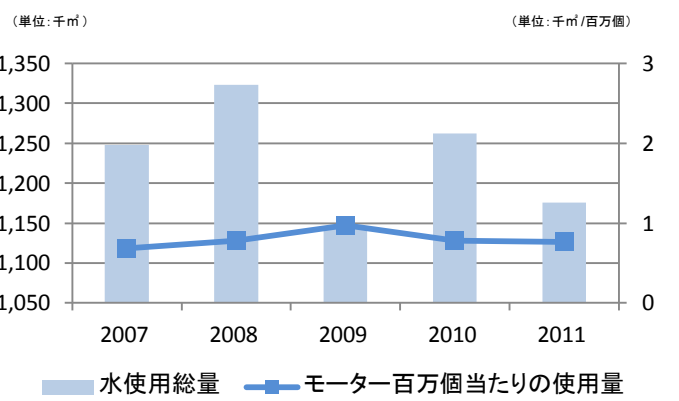
石炭使用量



最終廃棄物量



水使用量



	単位	2007	2008	2009	2010	2011
購入電力量総量	万kWh	18,826	19,464	15,568	18,049	16,454
モーター百万個当たりの使用量	万kWh	10.36	11.50	13.18	11.18	10.71
石炭使用総量	t	9,841	10,135	9,836	12,685	14,986
モーター百万個当たりの使用量	t	5.41	5.99	8.33	7.85	9.76
埋立廃棄物量	t	1,740	1,899	1,436	1,377	1,069
モーター百万個当たりの廃棄量	t	0.96	1.12	1.22	0.85	0.70
水使用総量	千m³	1,248	1,323	1,144	1,262	1,176
モーター百万個当たりの使用量	千m³	0.69	0.78	0.97	0.78	0.77



お問い合わせ

マブチモーター株式会社

管理本部 総務部

〒270-2280

千葉県松戸市松飛台430

TEL: 047-710-1224

FAX: 047-710-1141

E-Mail: kankyo@mabuchi-motor.co.jp

<http://www.mabuchi-motor.co.jp>